

u002003

[平内区] 二十三夜祭

概要 適用



u002003001) 日没を拝むことから二十三歳が始まる



u002003002
女性が料理を準備



u002003003
コモイが結界に入る



u002003004
ロウソクに火を灯す



u002003005
さまざまな供え物



u002003006
供え物の日月の餅



u002003007
結界にコモイ着席

【概要】

- ・十五夜ほど盛んではないが、全国的にある月齢による月待行事。
 - ・昔は島中で行っており、翌朝の日の出まで飲み明かしたといわれている。
 - ・平内では旧暦 12 月 23 日の夜、集落役員他住民が生活館に集まって行っている。
 - ・日と月に感謝して前年の願を解き、新年の「五穀豊穡と豊漁、村の安全祈願」の行事とされる。
 - ・「コモイ(お籠りの意か?)」と称する神を拝む役が選ばれる。
 - ・コモイ他参加者は行事の最初に日の入り、最後に月の出を拝んで祈願する。
 - ・コモイは、行事の間は座敷のしめ縄を張った一角(結界)の席について、次々に訪れる住民に酒をふるまい、挨拶を受ける。コモイ以外は結界に入れない。
 - ・しめ縄の内側(結界)に日月をかたどった紅白の餅、365個の小型の紅白餅、カメの手、椎の実、米、塩、野菜、果物、菓子が供えられ、コモイが席につくときにロウソクに火が灯される。
 - ・参集した住民は、日の入りから月の出までコモイが眠らないよう賑やかに飲み食いする。
 - ・二十三夜祭り行事来歴など(住民の話)。
- 古くは、この祭りは浜で行われたといわれる。二十三夜の時期は日没から夜半に上る月(半月)まで闇夜になるので、浜に帰る漁船の目標として火が焚かれたといわれる。結界にはその象徴としてロウソクが灯される。このロウソクは日の入りから月の出まで消してはならないことになっている。
- 二十三夜祭り 平成 28 年 2 月 1 日の記録
- ・婦人有志が、生活館調理室で祭りの料理を準備する。
 - ・18 時前、一同が会場の生活館前で日の入りを拝む。



u002003008

参会の人に酒を注ぐ



u002003009

参会の人々に酒を注ぐ



u002003010

宴会 a



u002003011

宴会 b



u002003012

宴会 c



u002003013

月の出を拝んで終了

- ・コモイに選ばれた2人がしめ縄の中(結界)入り、ロウソクに火を灯す。
- ・会場の生活館和室に次々と住民が訪れ、コモイとも飲み交わして宴会は6時間に及ぶ。
- ・0時半前、一同月の出を拝んでお開きとなる。
- ・あいにくの雨もようにて、太陽も月も見ることができなかった。

【参考資料】

- ①屋久町郷土誌第一巻村落誌上
 - ②屋久島民俗誌 宮本常一
- 他に区長他、住民聞き取り

【写真】 *写真記録は平成28年2月1日 二十三夜祭り

- u002003001)生活館で行われた二十三夜祭りは18時前、日没を拝むことから始まる。
- u002003002)調理室で、婦人有志が祭りの料理を準備する。
- u002003003)和室に設けられたしめ縄で仕切られた結界にコモイの2人が入る。
- u002003004)コモイがロウソクに火を灯す。
- u002003005)結界にさまざまな供え物が並ぶ。
- u002003006)供え物の中心は日と月をかたどった紅白の餅。
- u002003007)コモイが席について一座が整う。
- u002003008)コモイはお参りに来た住民に酒を注ぐ。
- u002003009)住民が次々訪れ、神様との繋ぎ役ともいえるコモイはなかなか忙しい。
- u002003010)盛りだくさんの料理が出され、宴会が始まる。
- u002003011)月の出までコモイが眠らないようにと、賑やかな宴会は6時間余り続く。

u002003012)宴会

u002003013)0時半前に生活館前で月の出を拝んで、二十三夜祭りは終了する。